

# 蕨の教会 日本聖公会 川越キリスト教会

〒350-0056 川越市松江町 2-4-13 (牧師) 司祭 パウロ鈴木伸明 ☎049-222-1429 FAX049-222-2056  
http://www.kawagoe-seikokukai.org/ (編集) 文書部 ルカ 野澤 達也

2020 年度宣教テーマ「あなたがたに平和があるように」(ヨハネによる福音書 20 章 19 節より)～弱い人々と共に～

## イースターメッセージ 永遠の命の約束

司祭 パウロ鈴木伸明



昨年末から本年にかけて、神様の許に召される方が続きました。

12月29日にテモテ山本喜一さんが85歳でご逝去。山本喜一さんは療養中でご体調が思わしくなく心配していましたが、逝去されるとは誰も思っていませんでした。

1月8日にはチャールス石山稔さんがご逝去、転院される病院の応接室で倒れ、79歳の突然のご逝去でした。

1月9日には当教会とかかわりが深く、絵画に生涯をささげられたアンデレ齋藤研さんが療養中80歳でご逝去、また1月16日には東松山聖ルカ教会のサムエル笠井亘さんが、2泊3日出張にいらした上海のホテルロビーで倒れ、56歳の突然のご逝去でした。笠井亘さんは一人息子でした。

多くの人々が生きる支えとしていた兄弟がどうして逝去されてしまったのか、ご家族の悲しみと失望に触

れつつ、その思いを拭い去れないままご葬儀の時を共にいたしました。

ルカによる福音書第7章11節以下には、ガリラヤの町ナインにイエス様と弟子たちが行った時、葬儀の行列に出会った物語が記されています。母一人子一人だったのにその息子が亡くなり、棺が担ぎ出されるどころでした。葬儀の祈りを終えて、町の外にある埋葬地へ一同で向かっているところだったのです。

イエス様は行列を止めさせ、母親を見て憐れに思い、「もう泣かなくともよい」と言われました。この母親はイエス様に慰めを願い求めたわけではありませんでしたけれども、イエス様は憐れに思い、この息子をよみがえらせたのです。憐れみと慰めは求めなければ与えられないのではなく、神様はその悲しみを私たちに以上に分かっておられ、必ずその涙をとどめ失望を希望に変えることがお出来るのだと語っているのです。一人息子を亡くし、失望の底に沈んでいる母親に対して、「もう泣かなくともよい」との言葉を人間はかけることができませんけれども、神様はその力をお持ちであり、私たちはそれを信じ続けて生きていくのだと、聖ルカはこの物語を通して私たちに語っているのです。

イエス様ご自身も、最後の晩餐で

聖餐式を制定されたとき、弟子の誰が、翌日の午後にイエス様が命を失うことになると思っていたでしょう。イエス様の十字架上の死は、「私はメシア」と真実を語ったにもかかわらず人々が受け入れず、ポンテオ・ピラトがイエス様の無罪を知りつつも群衆を満足させるためだったと書かれています。そのようなあり得ない状況の中でイエス様は命を失うことになりました。しかしそれは人々の罪を赦して永遠の命を与え、御国に招き入れるためだったと聖書は語っているのです。

私たちは生涯のうちに、幾度となく悲しみと失望の底に沈みます。どうしてこのようなことがどの思いに駆られる時、イエス様ご自身もそうした状況で十字架につかれたのを学びます。

復活の喜びは、イエス様が私たちの先駆けとして復活された、神様は必ず私たちを起き上がらせてくださる、悲しみと失望から引き上げてくださる、力づけてくださる、導いてくださる、あなたはそれを信じるか……、この問いかけへの私たちの応答なのです。

復活の主がすべての人に宿り、その喜びがすべての人々を満たしますように……。